

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成29年3月12日～24日に陸奥湾5定点で付着生物ラーバ調査を行ったので、各種ラーバの出現数と今後の見込みをお知らせします。

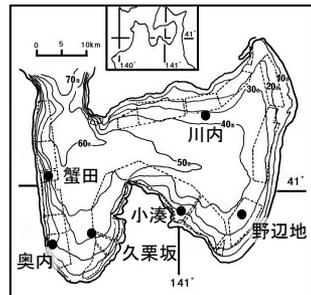


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現数 単位:個体/m³

調査地点	調査月日	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ
蟹田沖	H29.3.24	26.4	5.6
奥内沖	H29.3.20	34.2	10.0
久栗坂沖	H29.3.15	25.6	10.6
野辺地沖	H29.3.12	96.9	26.6
川内沖	H29.3.15	158.6	57.8

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

1 キヌマトイガイ (コメガキ)

ラーバは、蟹田沖で26.4個体/m³、奥内沖で34.2個体/m³、久栗坂沖で25.6個体/m³、野辺地沖で96.9個体/m³、川内沖で158.6個体/m³見られました(表1、図2)。

ラーバは、12月下旬から継続して出現しています。また、東湾では前年並みにラーバが見えているため、今後も付着が進むと思われます。

2 ムラサキイガイ

ラーバは、蟹田沖で5.6個体/m³、奥内沖で10.0個体/m³、久栗坂沖で10.6個体/m³、野辺地沖で26.6個体/m³、川内沖で57.8個体/m³見られました(表1、図3)。

秋の分散後におけるラーバの出現数は前年より多いため、今春の付着は多いと思われます。また、東湾では出現数が増加してきたので、付着が進む可能性があります。

3 オベリア類 (クサ)

クラゲは見られませんでした(図4)。出現数は前年より少ないので、付着は少ない可能性があります。

4 ユウレイボヤ

ラーバは見られませんでした。秋の分散後におけるラーバ出現数は前年より少ないため(図5)、今春の出荷時には大型個体の付着は少ないと思われます。

5 アミクサ

アミクサの小枝が蟹田沖で169.4個/m³、奥内沖で123.3個/m³、野辺地沖で6.3個/m³見られており(図6)、夏にかけて繁茂する可能性があります。



写真 パールネットに繁茂したアミクサ(平成28年6月)

6 お知らせ

今季の付着生物ラーバ情報は今回で終了です。今後のキヌマトイガイ、ムラサキイガイのラーバの出現動向については、ホタテガイ採苗速報を参考にして下さい。

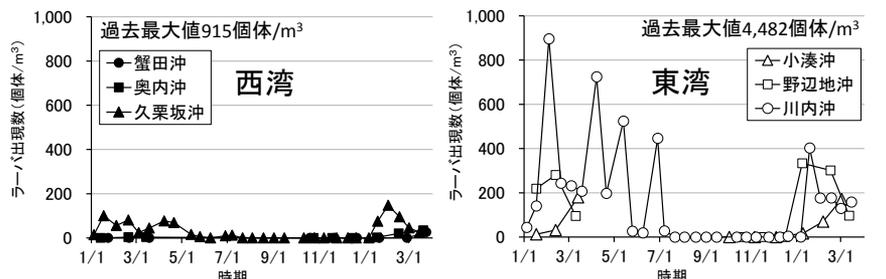


図2 キヌマトイガイ ラーバ 出現数の推移(平成28年1月～平成29年3月)

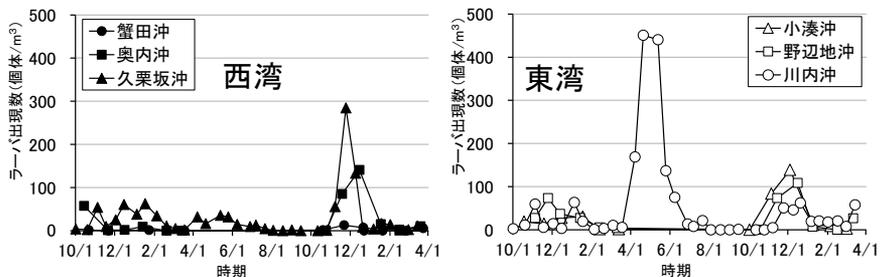


図3 ムラサキイガイ ラーバ 出現数の推移(平成28年10月～平成29年3月)

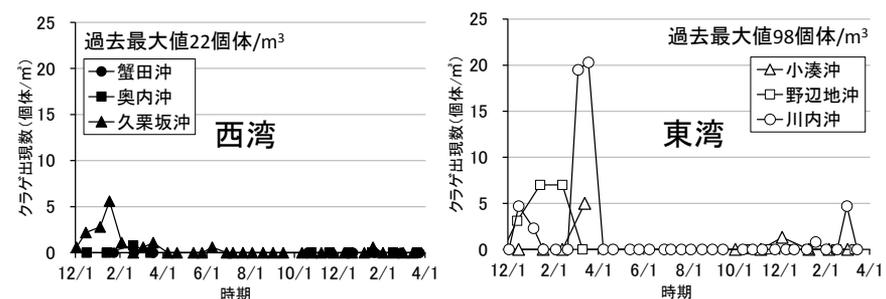


図4 オベリア類クラゲ 出現数の推移(平成27年12月～平成29年3月)

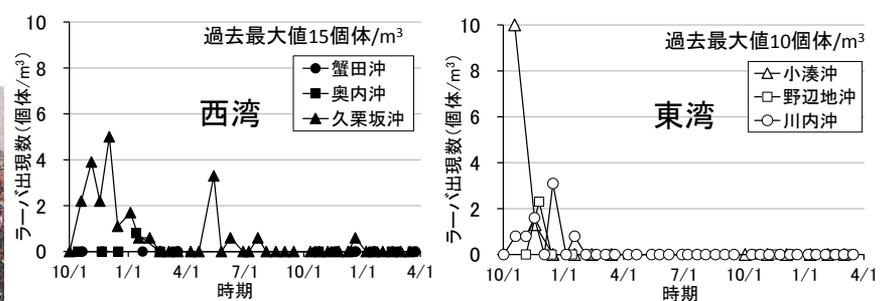


図5 ユウレイボヤ ラーバ 出現数の推移(平成27年10月～平成29年3月)

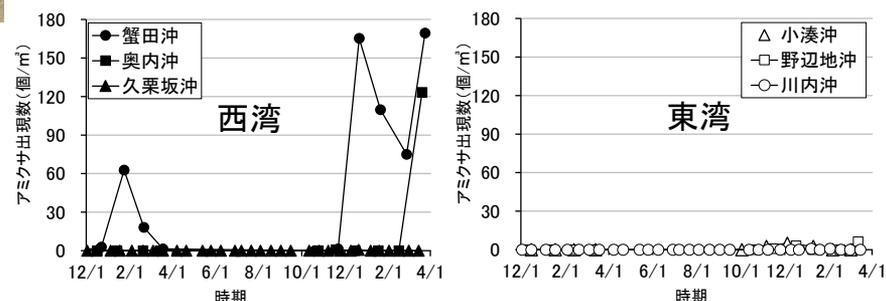


図6 アミクサ小枝出現数の推移(平成27年12月～平成29年3月)

